

日本における合鴨農法の最新動向について

一稲作から畑作まで一

日本国・岡山大学大学院 岸田芳朗

1. 親愛なる中国の友人へ伝えたいこと

①農とは食とは何か

農とは、土を耕し命を育み、心を耕し文化を創る
食とは、人を良くし、人と人を和ませ生きる力を育む
化学物質；世界10万種類，日本5万種類
農薬・食品添加物に含まれる化学物質
環境に負荷・人間の体内に蓄積

②戦後に日本が選択した農業・食料政策の結末

戦前まで日本は有機農業を基本としていた；戦後，農薬と化学肥料に依存した農法に大転換
1970年代までの日本型食生活を先進国は評価；しかし日本は食の洋風化を選択
その結果；
世界に例のない農業従事者の高齢化・育たない若手農業後継者・耕作放棄地の増大
低年齢化した生活習慣病と悪性新生物（癌）・増え続ける国民医療費（32兆円）
増え続ける自殺者（1年間3万人以上）
穀物自給率とカロリーベースの食料自給率の異常な低下

表 日本の穀物・食料自給率の変化

西暦	穀物自給率	食料自給率 (供給熱量)
1960	82%	79%
1970	46%	60%
1980	33%	53%
1990	31%	48%
2000	28%	40%
2006	27%	39%

2006年現在 穀物自給率 世界で124位
食料自給率 先進国で最低

2. 日本における近代農業技術の光と影

○戦後における農業技術の発展

耕種業：化学肥料＋農薬（殺草剤・殺虫剤・殺菌剤）＋機械化 → 単作化
畜産業：配合飼料＋機械化＋施設化＋薬品（抗生物質） → 立体飼育（密飼い）
成果：戦後の食料不足 → 解決
課題：機械・施設の大型化・経営規模の大型化 → 経営難 → 離農
化学物質の環境への大量流出 → 環境汚染 → 生物多様性を貧弱化
加工型畜産：エサとなるトウモロコシの96%はアメリカからの輸入
世界的な穀物価格の高騰で、廃業が相次ぐ日本の畜産農家
山野の利用
家畜品種に多様性

3. 省エネ・資源循環型農法としての合鴨農法

①慣行農法を超えた家鴨農法

慣行農法の単作化 → 合鴨農法は複合化

合鴨農法：水田内における水稻の株と株の未利用空間・雑草と害虫 → 農業資源として活用

合鴨農法は合鴨稲作ではなく、水稻栽培の耕種業と鴨飼育の畜産業を結合させた総合技術

②成苗から稚苗へ

	過去	現在	備考
適性苗：	成苗	稚苗	技術革新をもたらした0日齢ヒナ放飼
水管理：	中干し	常時湛水	水資源節約型農法を実現

③肥料の救世主となった水生シダ植物アゾラ

	過去	現在	備考
施肥管理：	有機質肥料	無有機質肥料	水生シダ植物アゾラの導入
放飼羽数：	10～20羽	30～50羽	750kg以上の米収量を実現

④0日齢ヒナを放飼し水田から引き上げた翌日に解体処理

	過去	現在
ヒナ放飼時期：	7日～14日齢	0日齢
引き上げ時期：	出穂始め～出穂期	収穫1ヶ月前
備考：	引き上げ後に飼育	水田内で成熟体重

⑤21世紀に必要な合鴨農法

肥料・穀物・農業資材価格の高騰・高止まり・輸出規制が続く

無農薬・無化学肥料・無有機質肥料・水資源節約の省エネ・資源循環型農法としてのアゾラー合鴨－水稻同時作はアジア農業に必要不可欠

4. 環境を修復し収入増を実現する総合技術としての家鴨農法の魅力

- 米と肉を同時に生産する農業生産技術 → 生産コストを低減化し収入増
- 汚染された生態系を修復する環境復元技術 → 生物相の多様化・浄化能力の向上
- 生産者と消費者を水田で結びつける文化発信技術 → 地域社会の交流を活性化
- 命を学び考えさせる教育技術 → 農業の持つ教育力を再評価し活用
- 21世紀に適した省エネ型畜産技術 → 地球温暖化の抑制

5. 水稻の穂が出ても水田内で飼育可能な大型肉専用種チェリバレーの魅力

- チェリバレーの特徴
 - 80日前後で3.5kgまで増体し、交雑種に比べ肉量が多い
 - 性格も温和しく人慣れが強く合鴨農法に好適
 - 適量のエサを与えたら水稻の穂を食べない
- エサは商品価値のない米と麦，野菜
- 発酵飼料の活用

6. 水稻作だけでなく麦作でも活躍するアヒル

- 農家に奇跡が起きたと言わせた雑草の抑草効果
- 雨に弱いヒナ → 対策は孵化直後のヒナに7日間しっかりとエサを給与
- 麦の播種は11月中旬で、アヒルの麦畑への放飼は4月上旬で引き上げは5月下旬
- 畦ぎわの雑草を退治する方法 → 麦畑を仕切ること
- 排せつ糞による養分供給効果は今後の課題

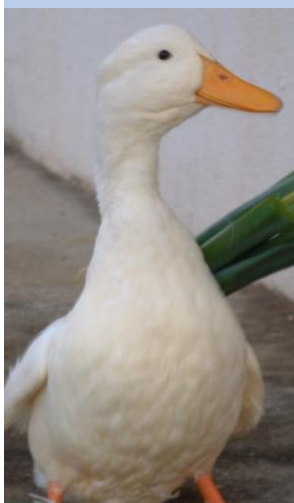
アヅラーアヒルー水稲同時作 (合鴨農法)



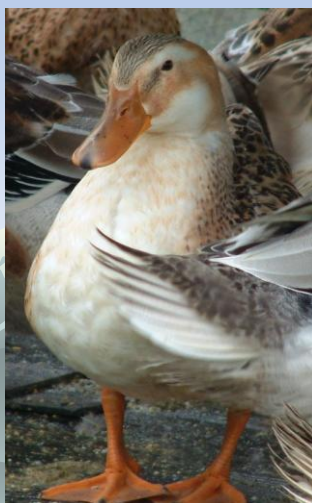
稚苗移植後日齢10日齢ヒ十を放飼



カモを選択する基準



チェリバレー
◆ 大型肉用品種

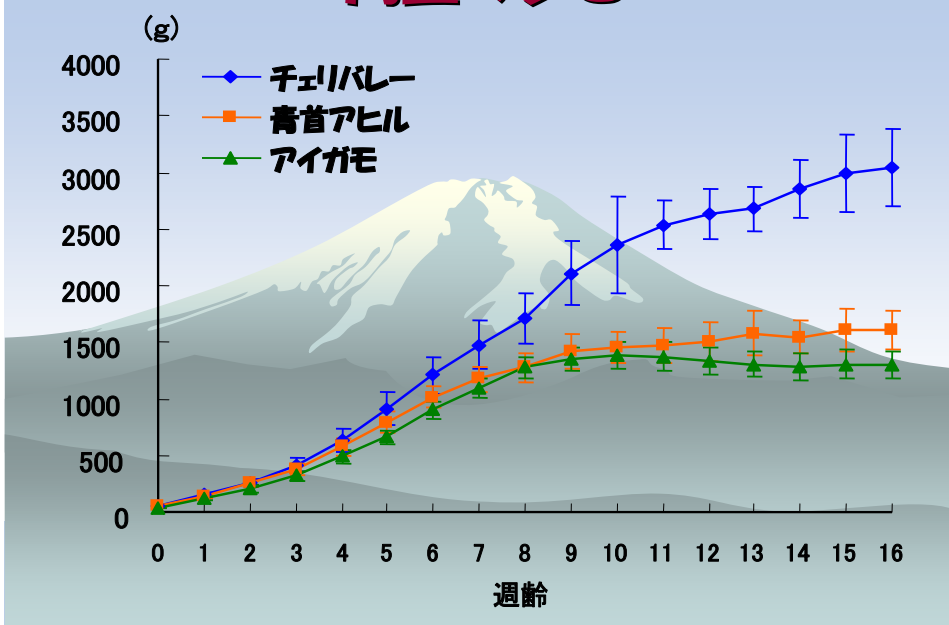


青首アヒル
■ 中型肉用品種



アイガモ
■ 小型(交雑種)

肉量の多さ



小麦畑を行動する家鴨



鴨ライスバーガー(500円)



日本の食文化と融合



無添加・長期熟成の地元産白味噌に12日間つけ込み

鴨のモモ肉を活用！



モモ肉の旨みに注目